

# 最低最悪ルートRTA

変身できない系ウォズ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

RTAsが流行ってる！

のるしかねえ！このビッグウェーブに！

そんなノリでやり始めた計画性ゼロの瞬瞬必生見切り発車小説はーじまーるよー！

# 目次

P a r t 5 : : ? / 裏話 3	裏話 2	裏話 1	P a r t 4	P a r t 3	P a r t 2	P a r t 1
36	32	26	20	14	7	1



## Part 1

変身できない系の

ウオズが走るRTAはーじまーるよー！

計測開始はタイトル画面の「はじめから」を選択した時点から。

名前に関しては常盤ソウゴがデフォルトとなっているのでそのまま。

一応変更は可能となっていますが、それをした場合主人公がアナザージオウと化してしまい<sup>加</sup>バット<sup>古</sup>エンド<sup>飛</sup>確定<sup>流</sup>となっていますので気をつけてください。おのれごとき氏。

このゲームはあるウオズが走ったRTAの計測時間が24時間を超えた事で有名ですが、流石にそれは運が悪すぎるのであまり計算に入れない方がよろしいです。

なんで未来から救世主ゲイツがやってくるなんてルートになっても続けたんですかねえ…？

…これ以上は誰かに怒られそうなので、私は私のRTAに集中するとしましょう。

今は我が魔王が柔道部員に投げ飛ばされた所ですね。高校三年生になっても王様になりたいたいと言う我が魔王以外ではちよつとあり得ない妄言を吐いている友人の目を覚まそうとしてくれる良き人物です。

だが我が魔王には必要ないのだ。不敬であるぞ！

と言う訳で投げ返します。

「どうだ、目が覚め……!?!」

「そりゃっ!」

ビターン!と階段に叩きつけます。

K。コマンドは仮面ライダーに変身した際と同様にRで掴み十字キーで投げるだけでO

「と、常盤…!?!」

「ごめん、王は威厳を保たないといけないから」

ここで追撃してもいいのですが、それをすると”暴君”の称号を獲得してしまい”カリスマ”が劇的に上がる代わり”話術”が全く上がらなくなるので本RTAでは…

よ　ろ　こ　ん　で　実　行　し　ま　す　。

投げは通常コマンドでも実行できますが、こと追撃の場合は完全に戦闘コマンドにしないといけないのでLボタンで変更してから弱キック2回、パンチ1回、立ち上がったきた所に投げをもう一度して完全に意識を落とします。

称号『暴君』獲得！

レベルアップ！

はい、”暴君”の獲得と共にレベルアップです。

ステータスUPと3ポイントを獲得しました。

このゲームではレベルアップごとに”カリスマ” ”話術” ”戦闘技術”の3つにポイントを振り分けることで有利に進めることができますが、今回は”戦闘技術”に全振りします。

（”暴君”の称号を獲得している我が魔王は自動でカリスマが上昇するのでポイントを振り分ける必要は）ないです。

話術？んなもん威厳カリスマがあれば十分じゃない！

さて、気絶した柔道部員を放置して帰路につきましよう。その際に自転車の上に乗ったブランクウオッチの回収を忘れずに。

この後の展開は我が魔王がゲイツ君とアナザービルドと対面、そして仮面ライダーオウに変身するまで代わり映えのない場面が続きます。ハッキリ言って皆さまは退屈するでしょう。ですので！

みなさまのためらい

本RTAのゴール及びルート説明をしまいましょうかね。

まず、本RTAが目指すルートは『最低最悪の魔王ルート』と呼ばれる我が魔王が文字通り最低最悪の王になるルートへと向かいます。

このルートでは敵対する組織がタイムジャッカーではなく、スーパータイムジャッカーやQuartz。そして全てのライダーが登場すると言う、とんでもない難易度となっております。

因みにこのルートが確定した場合、上記全てと必ず戦闘になります。そう、全てです。

なんなら戦隊とウルトラマンとプリキュアもデイケイドに連れられてやってくることもあります。おのれデイケイド。

因みにこのルートが確定する行動は、先程行った『同級生に危害を加える』ことです。ここで18歳までに育った我が魔王の”王”としての感性が「みんなを救う、そして、守る手段」から『暴力を払ってでも王として振る舞いを崩してはならない、自分が世界を支配したい』に変更されてしまうのです。

ルートに入った事の確認方法は”暴君”の称号を獲得したか否かとなっており、これが確定するとデータを消すまで二度と覆ることはありません。



民に力を振るのは我が魔王の、人間としての総合性が成り立たないと製作陣が判断したのでしょうか。

なので、地獄を見たくなければ通常プレイする際は絶対にしないでくださいね！  
え、私ですか？

……1145141919810回目のプレイでようやくクリアしました（実話）

あーんメンタルこわれちゃーう（迫真）

【ライダータアーム！】  
ん？

【仮面ライダー！ジオーウー！】

ああああああああああああああ！！

我が魔王素敵ですうううううううう！！！！

…失礼、取り乱しました。

いつのまにか我が魔王は変身の儀を終えた模様。  
画面内の私も盛大に祝って…祝って……

な　　ん　　で　　青　　い　　の　　お　　？

は？え、はあ？（素）

た、確かに今回は私が出てこねーなーとは思ってましたが、本当になんで？

いや、これ、え？

まだ私、

致命的なガバやらかしてませんよね？（震え声）

\*後で調べた結果、本ルートにて3%の確率にて起こる我が魔王を便利な掃除屋（意味深）として扱おうとする新勢力のウオズルートらしいです。因みにこの時点で黒ウオズは消されている模様。：なんで本番で来るのかなあ\*

……なるほど、24時間ランナー（RTA）の気持ちがありました。

新ルートの発見による大幅時間短縮の可能性。

それを信じて偉大なる先人のウオズは走りきったのですね！

ならば！私もその意思を継いで完走して見せようじゃありませんか！

ぶっちゃけリアルで時間がないので続行せざるを得ません！ヤケクソだーい！

そうと決まれば早速アナザービルドをボコボコに

【Part 1はここまでです】

【ご視聴ありがとうございました】

## Part 2

変身できない系ウオズが導く最低最悪の我が魔王RTAはーじまーるよー！

今回は近い未来で盛大に転ぶアナザービルドくんをボコボコにするシーンからスタートし、アナザービルドを倒すシーンでゴールします。

本作品では初めて戦闘する敵キャラ（ボス格）には大抵の場合強化バフがかかるのですが、初戦でありチュートリアルみみたいなものでもあるアナザービルド戦ではかかりません。

寧ろこちらにバフがかかります。丁寧に実力の差というものを教えて差し上げましょう。

オンドリヤ！ボゴボゴニシデヤル！（突然のオンドウル語）

素早く十字キーを二回倒しつつキックをすると飛び蹴りが発動するので、こ→こ←へ駆けてくるアナザービルドくんは避けられずダメージを負い怯みますのでその際にジカンギレードを召喚し袈裟斬りダッシュ斬りのコンボを決めます。するとノックアウトにより若干距離が開くことでアナザービルドくんがバスケットボールで中距離攻撃を仕掛けて来ます。なのでそれより早く素早くジユウへとジカンギレードのモードを

変更し3発ほど発砲。なるべく手首をならつてボールを弾き飛ばし、必殺技(キック)のコマンドを入力することで確殺となります。キックを放つまでの間はまだ操作が可能ですのでこの隙にアイテム欄からバイクライドウォッチをアナザービルドの背後辺りに放り投げてバイクを起動して戦闘終了!

アナザービルド、工事完了です。

そしてレベルアップしました。今回も”戦闘技術”に全振りしましょう。

やることやったのでさっさとバイクでこの場を去ります。モタモタしているとゲイツくんと王問答からの戦闘になり大口スです。

因みに通常プレイで逃げた場合は好感度が下がって救世主ルートの確立が高まるのでしないようにしましょうね。

しかし、このルートでは寧ろゲイツくんが敵対した方が何回もイベント戦闘があるのでより多くの経験値が稼げます。

なので慣れさえすればとてもうま味となります。

そのせいか、私はゲイツくんがただのexpにしか見えなく…おっと本音が。

それはともかく、このバイクで目指す場所はツナギーズファンカフェです。この世界のビルドとクローズの力を掻つ攫いに行きましょう。

ゲイツくんは……だらしな穴あきのジーパンに上半身が青いペンキを塗ったポ

デイベイントのウオズ（青ウオズ）が足止めしてくれるでしょう。多分。

「褒め称えよ！我が魔王が偽のヒーローを打ち倒した瞬間を！」

「なんかめっちゃ褒められてる…？」

ん？なんでしようこの会話。青ウオズは褒めたがりなんですかね？アナザービルドはすぐ復活するから完全に打ち倒した訳ではないのですが…。

まあええわ（ハナホジー）

この会話がこの青ウオズルートでは重要な意味を持つてるからロスではないです…  
ないと思いたいです（賭け）

と、そうこうしている内に逃げることができました。その後の移動も法定速度を無視して最高速度で走り去りましょう。

ヒヤッハー！（世紀末）

こうすることで刑事ライダーと接触しやすくなるのですが、何の事情も何しにこの行動を取っているともれなく逮捕されます。

気をつけないといけませんね（手遅れ）

（――黒移動中…）

はい到着です。

変身を解除し、カフェのドア前で『葛城フェイスの佐藤太郎のファンになった佐藤太郎フェイスの葛城』と『佐藤太郎バカになった筋肉バカ』を待ちます。ややこしいですね。

(この間にカフェ内を探索してもいいのですが、めばしいアイテムは落ちてませんので) しないです。

「おおおおお！ツナギーズ最っ高ー!!」

おつ、来ましたね。会話をスキップしつつビルドとクローズの力をいただきましょう。

彼らとの会話が気になる方はこのゲームを買うかジオウ本編を東映特撮ファンクラブに入会して見るかOoTubeにて無料配信されている第2話をみよう！（宣伝）  
「過去の俺によろしくな」

「ありがとう！」

お礼もちゃんと伝えてこの場を去りましょう。次の行き先は先程アナザービルドと戦闘した場所、青ウオズやゲイツくん、復活したアナザービルドが戦闘していると思われる所です。

何故戻るかという『現代でアナザーライダーを倒しても過去の被害者は取り戻すことが出来ない』ので過去でアナザーライダーを倒そう』というのが序盤の仮面ライダー

ジオウの話の流れなのですが、今の我が魔王は時間移動をする術がないのでツクヨミくんのタイムマジンンを借りパクするしかないからなんですよね。

まあ頑張れば最初の仮面ライダーゲイツとの戦闘中にぶんどれないこともないですが、それをするとツクヨミくんが大怪我を負いゲイツくんが本気で殺しにくるのでしません。

本気で殺しにきた場合のゲイツくんは全ステータス大幅UPのバフがかかりexpも豊富ですが、向こうは死ぬ気で来ているのでHPが1でも残っていたら気合で変身して襲って来ます。ゲイツリバイブに片足突っ込むレベルの覚悟です。

つまりこちらが死ぬか、ゲイツくんの息の根を止めなければ戦闘が終わらない、戦わなくては生き残れない！を体現してしまうのです。

そうなってしまうとexpを稼ぐ場が足りなくなると、今後の敵に対処する手数が足りなくなるので本RTAでは避けるようにしています。

あくまでも”気に入らない将来魔王になるやつ”程度に認識を収めることが重要です。ね。

つと、説明しているうちにつきましたね。

さあゲイツくん。一緒に過去に……

『ラビットラビット！タイムバースト！』

「はああああああ!!」

【GYaaaaaaa!!?】

ラビラビアーマー!? ?

まって！なんでさ！確かにゲイツくんが我が魔王（2068）から盗難してくる  
ウオッチはランダムですけど主役ライダーの基本フォームが殆どなのに！派生は鎧武  
のラインくらいだったのに！

あ、アナザーウオッチが割れた！

ちよ、普通にアナザービルドくんが倒されてるう！

ヤバイ！ヤバイ！ヤバアイ！ヤバイ！ヤバイ！ヤバアイ！ヤバイブ疾風！疾風！

いや喧しいわ！やめてよお！私が何をしたというの!?!ラビラビなんで初見だよお！

次の戦闘でステータスの暴力と相まって呆気なく倒されちゃうううう!!

しかもセーブしてねえ！してたとしてもゲーム開始時点で固定だから意味がねえ！

（日を改めての再走）やだあ…やだあ！やだあ!!（パラド）

「……………ジオウ」



「あ、あ、あ、あ?! な、ん、だよ?!」(涙目)

「ウオズから聞いたぞ。アナザービルドを倒すための鍵を探していた、とな。そして過去でこいつを倒さなければ意味がない。とも、な。：まったくもって不本意だが今は協力しろ。一緒に2017年へ行くぞ」

「ペっ、なんだよ脅かしやがって。」

「そしてマジ青ウオズナイス。どんな魔法使ったかは知りませんがゲイツくんからの好感度が上がってみたいですし：青ウオズルートはマジで短縮ありのルートだった：？」

「なんとという幸運！これはいいですね。このまま勢いに乗り当初の予定通り過去へ行きアナザービルドを完全にはっ倒してやりま」

【Part2はここまでです】

【ご視聴ありがとうございます】

## Part 3

実は現段階でかなりギリギリな綱渡りのRTAはーじまーるよー！（どちやくそ大声）

前回は、ゲイツくんがラビラビこと『ビルド・ラビットラビットフォームライドウオッチ』を所持していた事が判明しましたね。

通常ルートなら『クソチヨロツンデレ親友TUEEE』となる事請け合いならイドウオッチガチャでした。

しかし、暴君ルートを進む上でゲイツくんとの戦闘は『避けられない』『何度も戦う』『回数を重ねるたびに強くなる』そして『一度でも敗北すれば即死亡』となります。

盗難ウオッチがゴーストやドライブだった場合は上記の難問も粘ればクリアできますが、仮面ライダービルドの強化フォームであるラビラビではまるで歯が立ちません。鎧武のラインでさえ難易度が跳ね上がるのに中間フォームとか無理難題にも程があります。

もちろんこの事態は私が用意したチャートには存在していませんので……オリチャー発動です！

まずタイムマジーンに乗り込み、時空転移システムを起動させましょう。

その移動中に変身と仮面ライダービルドの継承を済ませます。

『ライダータアーム！』

『仮面ライダー！ジオウ！』

『アーマータアーム！』

『ベストマッチ！ビルド！』

『祝え！全ライダーの力を受け継ぎ！』

そして……でセーブ！

「時空を超え過去と未来をしろしめす時の王者。その名も仮面ライダージオウビルドアーマー。まず一人目のライダーの力を継承した瞬間である！」

（我が魔王の継承の儀と祝辞は飛ばす気は）ないです。これでもウオズの端くれですからね。

そうしている内に2017年に到着しますが…。

うーむ、いいですね。リセットです。

【リセットウ……】

バックバイザーツヴァイの音を盛り込んでくるあたり製作陣のやる気が伺えますね。

RTAでは素早いリセットが出来ず数秒ロスするので邪魔になってしまいましたが、そ

それはそれ。

\*実はタイトル画面の『設定』からこの演出はオフにできるのだが……それに気づいたのは編集中心であった間抜けなウオズである\*

「時空を超え過去と未来をしろしめす時の王者。その名も仮面ライダージオウビルドアーマー。まず一人目のライダーの力を継承した瞬間である！」

……これ、全部ウオズが祝辞を終わらせてからセーブした方が喧しくなくて良かったですね…。

それはともかく再び2017年に着きました…しかし目的の人物はいないようですのでリセットです。

「時空を超え過（ry）」

何故こんなことをしているのかというと『エボルト』に会うためなんです。

実はこのゲーム、アナザービルド撃破前の2017年に行くと『石動惣一』こと『エボルト』に遭遇することが出来るのです。極低確率ですが。

何千と繰り返し試走の中でも1割くらいの感覚で登場してきたので、こうやって何回もリセット&amp;mp;ロードをしていればいずれ会えると思います。

「…なにやら見覚えのない機械が飛んでるなあ」

おつ、中々引きがいいですね。

わずか三回目で彼と遭遇できました。

…でもしわ寄せが怖いですね、ここまで順調だと。

ま、大丈夫でしょ（慢心）

「ゲイツ。悪いけど先に行つてて。俺はこの人と話さないといけない気がする」

「……わかった。だが早めに来ることだな」

ゲイツくんには先に行つててもらおうよう我が魔王のカリスマ溢れるお言葉で説得（話術クソザコ）で納得（明らかに不満げ）させ、タイムマジーンか降りてエボルトと対面しましょう。

「…おお…まさかこの年になって宇宙人…いや未来人？どつちでもいいけど会うことになるとはなあゝ」

エボルトは石動惣一の演技をしています。が、事情を知っているプレイヤー側としてみると白々しいにも程があります。あります。

そのような演技など我が魔王には通用しないでゲスめ。せいぜい我が魔王の肥やしとなるがいいさ！

というわけで戦闘です。

彼のエボルトとしての力を奪います。

幸い腕のホルダーにはブランクライドウォッチがセットされているのでアイテムは

揃っています。先ずブランクウオッチを手に持ち仮面ライダーの走力を生かして接近。ブランクウオッチを持つ方の腕で弱パンチかまします。まあ生身のままでもお強いエボルトさんは軽々と避けますよね。ですから、彼が回避した先に方向を向けたらすぐに必殺技（キック）を発動せるコマンドを実行。挟み込み、逃げられない内にブランクウオッチを勢いよく投擲して命中させます。

「ぐおっ!？」

するとエボルトがライドウオッチ化し地面を転がり、元の人間である石動惣一が表に出てきました。

それを確認したら即座に変身を解除して必殺技をキャンセルします！

……工事完了！

エボルライドウオッチ、ゲットです。

はあああああああー発で成功して良かったああ！

アイテム欄で確認したところフェーズ1のようですが問題ありません。これでゲイツくんのラビラビに張り合えます！

ゲイツくんとのイベント戦闘はアナザーライダー撃破後に必ず一回起こります。

なのでなんの対策もせずビルドだけを継承した状態で物語を進めると我が魔王には勝ち目がないわけなんですよ。

そこで思い出したのがエボルトの存在。彼の力が有れば最低でもスペック問題はカバーされます。

そして力を手に入れるにあたり、エボルトは時間をかければかけるほど学習してこちらが不利になりますから、このように短期決戦を仕掛ける必要があったんですね。今考えました。

……さて、不安の種は除去できましたしアナザービルドの元へ行きましょう！

(黒移動中……)

【Part3はここまでです】

【ご視聴ありがとうございます】

## Part 4

おひさー！なウオズが走るRTAはーじまーるよー！

いやあ、小説動画投稿も久しぶりですねえ！

色々リアル現実でゴタゴタしてたり編集に納得が行かなかつたりと色々ありました。が私は元気です。

…さて、本編を始めましょう！まずはタイムマジーンに乗ってゲイツくんのマジーンから連絡が来ていないか確認することからですね。

アナザーライダーの位置を発見していた場合、ゲイツくんはどのルートでも律儀に（一部例外あり）こちらに教えてくれます。

確実に倒すために戦力が必要だからね、賢い戦士のゲイツくんは仲間を呼べるのだ。まあ、イベントを除けばRTA的にはあまり必要無いのですがね。ルート暗記してるし。

しかし今回はエポルトという存在を挟みましたし、乱数が悪戯してチャートにない場所にいる可能性があります。

なので、こうして確認する必要があったんですね（例の構文）



要は安定だよ安定！

さて連絡は…はい、ありましたがチャート通りの場所でしたね…。まあこんなもの誤差だよ誤差！

「…………よし、行こう！」

多分ゲイツくんが全部終わらせてるだろうけどね。

ラビラビアーマーがあつたし。

なので普段の私なら

『経験値足りなくなりゆううううう！』

と叫んでいたことでしょう。しかーし今の私はエボルライドウォッチを手に入れてるので素のレベルが低くともどうにかなるのだっ！

……………多分！

何せ完全に予想外の事態ですし、本来なら再送しなければならぬほどのガバ運でも今日逃したら次にいつRTAを走れるかわからない状況なので、その場その場で計算しつつ走り続けなければならぬんだよなあ…。

…これももうRTAやめてRTA風じゃだめ？

……………だめだよねえ…。

…つと、走行している間に現場に到着です。

状況はどうなっていますかねえ？

「邪魔しないでもらえるかなあ？」

ダリナンダアンタイツタイ！

冗談はさておきまだウールくんの時止めで足止めされてた場面でしたか。

この時止め、非常に厄介で本編でも殆ど対抗手段がありませんでしたが、このゲームの場合、時を止める対象を変えると前まで止まっていた人物たちの時止めが解除される……といった感じに調整されています。

\*1つのスマホで2つ以上の動画を同時に再生するのが無理なのと同じ\*

この仕様のせいで1時期はごとき氏の時止めを破って煽りまくるといったのが流行りました。

閑話休題。

我が魔王は範囲外にいたせいか止まっていますので今のうちに仕掛けちゃいましょう。

トウ！

「変身！」

タイムマジーンから飛び降りつつ変身します。

実はこのゲーム、最近のアプリで高いところからジャンプしてから変身コマンドを入

力すると、いつもとは違ったモーションを見せてくれるようになったんですよ。

かなりスタイリッシュなですし、お気に入りなので運営には感謝です。しかも通常より変身時間が短いのでRTA的にも大満足！

『カメーンライダー！ジオーウ！』

『アーマータアーム！エポリューション！エーボールー！』

『ジカングレード！ケン！』

『フィニッシュアアーム！』

この後ゲイツさんと戦闘になることを考えて、先にエボルアーマーを被っておきましよう。

戦闘時にアーマーを変えるより早いです。

そしてジカングレードにビルドライドウォッチを装填して必殺技待機状態に持つていきましよう！

\*豆知識↓本来の食玩ではベルト等の必殺技発動時にウォッチを押ししても『エボル！』の音声は鳴りませんし、ゲームが発売されたばかりの頃はそのままの仕様でした。しかしかなりの不満の声が重なり、バージョン2.0くらいで変更になったそう\*  
\*では…イクゾー！（デン！デン！デデン！！カーン！）

ジカングレード片手に突っ込むぞオラァン！

『ビルド！ギリギリスラッシュ！』

よくわからない式

例の数式とともに白い白線みたいなのがガシャコンとアナザービルドくんを挟んだと同時に白線を滑りながら突進！

「なっ…待てっ！」

流星にバレてこちらの時間が止められ操作が不可になりますがNPCゲイツくんが行動可能になったようです！

やっちやえゲイツくん！

「ッ！今だ！」

【ジカーンザーツクス！You Me！】

【フィニッシュタアーム！】

【ビルド！ギレギレシュートウ！】

兎っぽいマークがゲイツくんの弓から発射！着弾！アナザービルドが爆発しました！

アナザーウオッチも破壊されてたし、これで終わり！閉廷！ビルド編、完！

今までの検証だと通常のビルドでは必殺技だけでは削りきれませんでした…やっぱり強化フォームはめっちゃ強いですね…。

まあ、これからこいつと戦闘しなきゃいけないんですがね！

ビルド編はもうちつとだけつづくんじや。

…ん？なんか会話イベント入りそうですね…興味深いですがこれはRTAなのでスキップです。

(黒会話スキップ中…)

あれ？選択肢だ。

\*タイムアタックのため

\*かっこいい君たちが見たいから

\*ただの暇つぶし

フアツ!?

【Part 4はここまでです】

【ご視聴ありがとうございます】

## 裏話1

この時代のオーマジオウが変身したことで、ツクヨミが考えていたオーマジオウの発生を予防するという策は失敗した。

俺は遠くからジオウの戦いを見ていたが：奴は初めて戦闘をしているはずなのに、妙に手慣れている印象を受ける。

天性の勤なのかは知らんが、ともかくこいつがオーマジオウとなることは確定されただろう。

だから俺は奴を始末しようとジオウに近づこうとして……俺たちレジスタンスを裏切ったウオズに邪魔をされ、逃げられてしまった。

「ウオズ！何故貴様がこの時代にいる！というかその格好はなんだ！服はどうした!」  
「……やあゲイツくん。これはちよつとしたファッションというんだよ」

俺たちの時代ではちゃんとした服装をしていたはずが、この時代に来て何かに目覚めたのか、ウオズは半裸になっていた。

……まあ、いい。

それよりも今はジオウだ。

「…ふん、悪いが貴様に構っている時間はない」

バイクで逃げられたから探すのは困難だろうが…タイムマジンで空から探すか。ツクヨミに調べてもらうこともできるが、あいつはあまり乗り気じゃないし…。どうしたものか。

「まあ、待ちたまえ。これでも私は、君たちと同じ目標を掲げているのだよ」

「なあに？」

…今こいつはなんと言った。

俺たちと同じ目標？

つまり、オーマジオウの打倒、か？

馬鹿馬鹿しい。

「嘘だな。そもそも貴様がその思想を持っているのならオーマジオウに寝返ったりなどしないだろうが！」

そう、こいつはオーマジオウのもとに潜り込みこちらに情報を渡すと約束したにもかかわらず、渡されたのは偽の情報。俺たちに多大な被害をもたらした。

そんな奴が今更そんなことを話しても信じられる道理がどこにあるというのか。

「うーん、そうなんだけどね。その時の私と今の私は違うというか…なんて言えばいいのか…。ああ、転生、または生まれ変わり！これが一番しつくりくるね」

「…そうか。なら俺は今のお前とは無関係の他人。俺の問題に立ち入ってくるな。部外者は引っ込んでいろ」

もう付き合ってられん。

おそらく、こいつはジオウを確実に逃すために適当なことを口走っているだけだろう。

「…じゃあ君に取り入るための有益な情報を持ってきたと言ったら？」

「誰が信じるか。大体貴様の情報など宛にならんと身に染みているからな」

「でも、いまは無関係の他人だね。つまりリセット、0からさ」

「…いいだろう。聞くだけ聞いてやる」

別に言い負けたからとかじゃないからな。

「ありがとう。」

ではまずは先程の敵についてだね——」

……

……

……

「……なるほどな。過去で倒さないと意味がない、か」



「理解したようだね」

「あらかたな」

アナザーライダーに、それに対応するライドウォッチ。それを集めるジオウ…。

ウォズの話を書く限りだと、一般人を守る為に力を求めているような美談に聞こえてくるが。

「つまるところ、ジオウはその美談に託<sup>かこ</sup>けて確実な力を手に入れたいだけだろう。騙<sup>か</sup>されんぞ」

「ジオージかな？」

「誰だそれは」

「忘れてくれ…ま、君ならそういう反応するのはなんとなくわかっていたからね。最後に忠告<sup>プレゼント</sup>をしておこう」

——魔王はここで倒しても意味がない

「なあに…？それはどう言う…」

……いないな。

お得意のマフラーも無いのにどうやって消えた？

そもそも俺が瞬きをした僅かな時間で消えるなどマフラーがあっても不可能なはずだが……。

「むっ……これは……」

今さっきまで奴がいた場所には、ブランクウオッチと似たような砂時計が転がっていた。

どう考えても奴からの贈り物だが……これは一体？

怪しいが、放置して置く訳にもいかない。取り敢えず回収はしておこうか。

「わあああああああ!!」

っ、悲鳴……!

「ゲイツ……ここにいたのね!今、さっき倒れたはずの……!」

「アナザーライダーが蘇った……か?」

……奴の話に信憑性が出たな。

色々と癪にさわるが少しは信じざるを得ないか。

「仕方ない」

ジオウが戻ってくるまで相手をしてやる。

どうせどこにいるのかもわからないな。

それに、あくまでも美談を通そうとするのなら相手をしている内に勝手に戻ってくる

だろう。

【ゲイツ！】

「変身！」

【カメンライダ〜ゲイツ！】

「行くぞ…！」

## 裏話2

「ツ！今だ！」

【ビルド！ギレギレシユートウ！】

ジオウが突然乱入したことによって、俺の時止めが解除された。

奴に手助けされたことは釈だが、このチャンスが無碍にするほど俺は愚かじやない。

すぐさま武器を取り出し偶然アナザーライダーに対応していたライドウオッチを装填、発射する。

『G y u o o o o o o o o !!?』

「…くそっ！」

着弾。

アナザーライダーが爆発し、埋め込まれていたウオッチが吐き出され、こちらもパリンと小気味良い音を立てて碎け散る。

その様子を見たタイムジャッカーは撤退したようだな…。

「終わったか」

そう独りごちる。

アナザライダーとは何回か戦ったことがあるとはいえど、それらは全て一度倒せばすぐに再起不能になっていた。

ウオズが言っていたように、タイムジャッカーの技術も進化しているということか……。

「うわつとと……ふう、終わったねゲイツ。……で、どうするの?」

このポヤポヤした魔王のアナザライダーも出てきたりしてな。

……いや、こいつがポヤポヤしているのは本性を隠しているというだけだろう。

現に、この時代の人物を強襲して奪い取ったと思われるライドウオッチで変身している。

こいつは最低最悪の魔王だ。

もはや躊躇うことはない。

俺はこいつを倒しにこの時代に飛んできたのだ。アナザライダーが出たから一時的に協力したが、それが終わった以上倒さない理由なんてない。

「アナザライダーは倒した。なら次は貴様の番だ、ジオウ」

「……やっぱそうなる?」

は、どうやら覚悟はできているようだな。

「当然だ。……ここで決着をつけるぞ」

ジカンザックスからウオツチを外し、起動する。

【ラビットラビット！】

そしてジクウドライバーに装填…。

「まあ待ちたまえよ、2人とも」

しようとしたところで邪魔が入った。

そいつは、つい先程見たばかりの見知った顔の奴。

「…また邪魔をしにきたのか、ウオズ」

「いやあ嫌われてるね、私」

それよりも寒くないのかその格好は。

この時代の冬だぞ？俺は正直クソ寒い。変身してからは平気だが。

だが奴はそんなことを暖気おくびにも出さずのたま曰う。

「それは置いておくとしてだ。やあ我が魔王。さつき振りだね」

「神出鬼没だなあ…で、今度はなんの用？」

「何、一つ確認したいことがあってね」

確認？

…ああ、奴はオーマジオウの従者だからな。

若い頃のジオウの覚悟を問おうとしているのかもしれない。

将来の魔王っぷりを見るに、俺たちにとっては碌でもない代物だかな。

「君のその強さ……いや、この場合は戦闘技術と言ったところかな。あ、ステータスのことではないよ？……それは、何度も繰り返し、積み重なって出来た強固なものだが……なんでも、君はわざわざ時間を消したり新たに生み出してまでそんなことをやっているんだい？それも、茨の道である『暴君』のルートでだ……さあ、答えを聞かせてくれないかい」

………？

り、理解できんぞ……？

## Part 5...?／裏話3

なんということだ……！走者のガバは加速する！

な、RTAはじまるナリ！（無能ボイス）

（RTA中に漏らしたら一生ネットの晒し者ナリ……そうだ！大声をだして誤魔化すナリ！）

ああああああああああああああああああああああああああああああ！！！！！！

うるせえ！（銃声）

何だったんだ今の。まあいいや気を取り直して、頭痛気味なウオズが走るRTAはー  
じまーるよー！

前回はアナザールビルドを完全に撃破することができましたね。

まあ、そのかわり選択肢こんなのが出てきましたかね！

\*タイムアタックのため

\*かつこいい君たちが見たいから

\*ただの暇つぶし

………？



り、理解できんぞ…？

本当にどうしてこんなのが出てくるんでしょかね。ゲームの仕様上、選択肢が出ているときは会話ログが見れませんから、持ち前の直感で最適解を選ばないといけません。

まあ、こんなの余裕で突破してみせますよ！

だでにRTA<sup>ウオズ</sup>走者やってませんからね、人の心を読むなんて簡単なのだ！

タカキも頑張ってたし、これまで積み上げてきたもの（完走できますようにと神社でお祈り）は全部無駄じゃない筈なので…私が立ち止まらない限り…道（最速RTA）は続く…！

というわけで私が選ぶのはこれだあ！

\*タイムアタックのため

やっぱりね、嘘はよくないと思うの。

ウオズはウオズでも私は嘘をつかないウオズで通つてますからね！正直が一番！ラブ&amp;pp；ピース！

さあ、奴さんの反応は…？

「……なるほどね、君の考えはよくくわかったよ。やはり、君は自分の快樂ばかりを優先する最低最悪の王だ」

キユイイ！（車の急ブレーキ）バダン！（ドアが閉まる音）

ズドドドドドドド（撃ち乱れる弾幕）

止まるんじゃねえぞ…（キボーノハナー）

あきらかに選択肢をミスりました。好感度大暴落です。正直に答えたのになんで…？（困惑）

「では、生きていたらまた会おう、魔王に救世主」

フアツ!?

一瞬で消えましたよ見ましたか今の！それに見限るの早くないすかね!?

つてかゲイツくんのこと救世主と呼ぶあたり白ウオズ派なんすかね？にしては体青かったけど。

「…ツ!?!おい、お前なんかおかしいぞ…!」

フアフアツ!?

身体がバチバチ音を立てながら薄くなっています！

あつ…!?

強制的にアーマーだけ解除されましたね…。

…：タイムジャッカーに歴史奪われたライダーの強制変身解除…：にしてはアーマーだけ解除されるのはおかしいです。

もう訳わかんねえなこれ。

新たなバグにしては台詞がありますし…新ルートかな…やっぱり青ウオズが出た時点でやめるべきだったなあ。

流石にこの状態でRTA続行はできませんので再送です…やだなあ…。

(リセットボタンポチー)

……あれっ。

(連打する音)

あれれれれ!? 反応しない!

うっそ、故障ですか!?

(連打する音)

………ダメみたいですね。

もういつそゲームカセットを引抜こうかな。

……いや、待てよ…もしかしてこれはRTA神からの続行せよとの思し召し!?  
ならば…答えは1つウー! (バキイ!)

続 行 し ま す !

どうせ最低最悪ルートでは全部の敵と戦うんだしちよつと倒す敵が増えたりするなんて誤差だよ誤差!

ブツチャケ完走できればそれでいいんで、頑張つてイクゾー! (カーンカーンカカーン!) (デン!)

…さて、続行するとなつたら、まずは現状把握をしましょう。

まずライドウオッチは……自分のウオッチしかありませんね。

本当にフラグ管理がバグつて強制解除になつただけなのか…?

にしては特殊ですし…ゲイツくんはどうなつてるか聞いてみましょう。

「いや、俺は無事だが……あいつが何かしたのは間違いなさそうだ」

えー? (不服)

ゲイツくんだけズルくない?

「んなこと知るか! …まあ、俺としてはお前を倒し易くなつてありがたいがな」

ヒエツ

忘れてました! そういやゲイツくんに対抗する手段全部なくなつてるやん!

ヤバいです! 今ここで襲いかかれたら確実にGame overです! 続行すると決めた以上は避けないと…!

「だが…」

ん？

「今は奴の方が気になっている。お前の従者だった奴があんな敵対的な発言をしたのが  
気味が悪い。特に、俺が救世主だと？虚言ここに極まれりだな」

……えーとつまり？

「ウオズの真意が分かるまでは協力しろ。今の奴はオーマジオウすら裏切りかねん」

や っ た ぜ ！

ゲイツくんの青ウオズに対する好感度がマイナスに振り切ったことで一時的に我が魔王と協力関係になってくれました！

最低最悪ルートでは、本当に全ての敵：ネームドキャラクターを撃退すると達成できるルートなのでウオズも倒すことになります。

ウオズの戦闘力はデータによって異なるランダム方式なので手の内を知っているゲイツくんが味方の場合はかなり上位のアドバンテージになりますね。

一時的とはいえどここれはよっしゃラッキー！（シシレッド並感）

よし、

そうと決まったのなら現代に戻ってみましょう。

ここにいっても何も始まりませんしね。

あ、無言で行くと引き止められてロスになるだろうからあらかじめ誘つとこう。

ハイゲイツくん！現代戻ってみようぜ！

「…そうだな、ひとまず戻ってみるか」

ヨシ！（現場猫）

タイムマジン、カモオン！

『タアーイムマッジン！』

\*因みにエボルトが出現していた場合、ビルドとクローズは現れません。状況がややこしくなることを危惧した製作陣の配慮みたいですね\*

お、到着したみたいですよ!?

「どーなってやがる!?!」

” A a a a a a a a a a a a a a a a  
!!!!!!”

な、なんでアナザーアルティメットクウガがあばれてるんですかあああああ!?  
しかもそれなりに戦闘員とからも湧いてますねえ!

わー!?!襲ってきましたよ戦闘です!

☆☆☆☆

【裏】

「…恐ろしいほどに上手くいった。君のおかげだよスウォルツ氏」

「ふん、この程度造作もない」

まるで怪獣モノの映画のような光景の前に、2人の男性が優雅に寛ぐ。

彼らがいる場所は本来賑やかなレストランであるが、今は時が止まっているかのよう  
に静まりかえっていた。隠し事や、やましい話をするのに持つてこいの空間である。

「さて、スウォルツ氏。これが君の欲しがってた『ギンガミライドウオツチ』だ。受け  
取ってくれ」

「ああ、たしかに受け取ったぞ」

2人の口数は少ない。

それもそうだろう。彼らは知り合いではあるものの状況次第では敵にもなりうるの  
だから。

「では、第二段階もよろしく頼んだよ」

そう言つて立ち去ろうとするウオズ。

腹の探り合いは望んでいないのか、最低限の会話、報酬の譲渡を済ませて足早にその部屋を出ていく。

「少し待て」

「いやだね、私は私でやることが…」

「お前の意見は求めん」

スウォルツが部屋から出ようとするウオズに手を向けた瞬間：世界の時間が完全に停止した。

「…わかったよ。何が聞きたいのかな？」

「お前に俺の一族最強の力が効かん訳を話せ」

しかし、ウオズはまるで何事もなかったかのようにクルリと振り返る。

スウォルツはそれが気に入らない。

せつかくウオズの情報から、記憶を失った状態の妹から力を奪い取ることに成功したと言ふのに…まるで効果がない様子にイライラしているのだ。

「なに、単純な話さ…私は時止め対策を持ったキャラクターのライドウオツチ使っている。ただそれだけだよ」



これで満足だろう？

そう言い残してウオズは今度こそ退出していった。

「……まあいい」

少なくとも純粹な力である仮面ライダーギンガの力を手に入れたのだ。

自らの機転とこの力があれば奴のライドウオッチを奪い取るのに苦勞はしないだろうから。

スウォルツはそう自分を納得させ着席。

ふと、窓の外を見る。

「……どうやら仮面ライダー共も動き出したようだな」

そこには、人々の願いによって呼び出された仮面ライダー達が悪を打ち砕くため、人々を守るために戦っている姿があったのだった…。